

戸田市立小・中学校 英語教育ブックレット 2020

Booklet for English Education
in Toda City, 2020

戸田市の目指す子供像（小・中9年間の一貫した英語教育）

- ・ 誰とでも主体的に関わろうとする子供
- ・ 互いの気持ちや考えを英語で伝え合うことができる子供
- ・ 豊かな国際性を身に付けた子供



戸田市教育委員会
戸田市英語教育研究推進委員会

新しい外国語教育のポイント

目標はコミュニケーションを図る資質・能力の育成

- 外国語によるコミュニケーションにおける**見方・考え方**を働かせて育成する。

[見方・考え方] 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築**すること

- 外国語による「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4**言語活動**(5領域)を通して育成する。
[注]詳細は、各校種の学習指導要領を参照

[言語活動] **実際に外国語(英語)を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動**を意味する。発音練習や、文字を機械的に書く活動は言語活動ではなく、練習である。練習は、言語活動を成立させるために重要だが、練習だけで終わることのないよう留意する。

[注] 小学校高学年以下は「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」の3領域

- 本市では、**コミュニケーションを図る素地・基礎等となる資質・能力**を次の言語活動を通して育成する。

外国語活動:コミュニケーション能力の素地(低学年・中学年)Let's Try①②

- ・体験的に理解を深め、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。
- ・児童の興味・関心に合った題材や活動を設定し、気持ちや考えを伝え合う。
- ・相手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。

外国語科:コミュニケーション能力の基礎(高学年)検定教科書

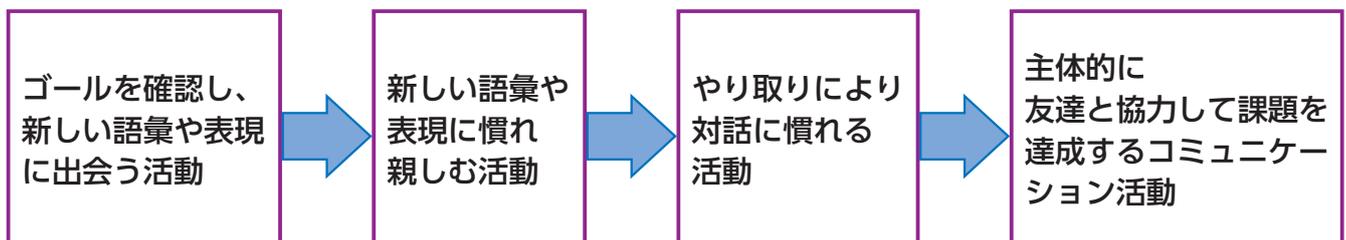
- ・実際のコミュニケーションにおいて活用できるような基礎的な言語材料及び言語技能を用いる。
- ・伝え合う目的や必然性のある場面・状況でコミュニケーションを図るとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語彙や表現を推測しながら音読したり書き写したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。
- ・他者に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。

外国語科:コミュニケーション能力(中学校)検定教科書

- ・目的や場面、状況に応じて、簡単な情報や考えなどを理解し、表現し、伝え合う。
- ・日常的や社会的な話題について、既習表現をフル活用し論理的に伝え合う。
- ・複数領域を統合した言語活動や即興で伝え合う課題を設定し、主体的な発信力を高める。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- 戸田市版英語指導と評価におけるルーブリック**を活用して、子供の実態や学習状況を把握しながら、日々の授業改善を進める。
- インプットとアウトプットのバランスをマネジメント**し、子供がアウトプットをしたくなる課題や資料をICT機器の強みを生かしながら工夫する。
- 単元のゴールを最初に設定**し、その実現に向けて各時間の活動を組み立てる。



学習評価の在り方・進め方

○学習評価の在り方～指導と評価の一体化+多面的・多角的な評価～

- ①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ②教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



○学習評価の基本的な枠組み

学習指導要領に示す教科の目標や内容に照らして児童生徒の学習状況を評価する。

- 形成的評価に拠る観点別学習評価**: 評価規準を用いて児童生徒の学習状況を分析的に捉える。
A: 十分満足できる状況 B 概ね満足できる状況 C: 努力を要する状況 (観点ごとにA B Cの3段階評価)
- 評定**: 観点別学習状況の評価結果を単元/内容のまとめりに毎に総括的に捉えて評定する。
(小学校は3段階、中学校は5段階評価の評定)
- 個人内評価**: 観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性、進捗の状況を示す。(感性や思いやりなど)

「知識・技能」の評価

- ・コミュニケーション活動を通して獲得する**知識及び技能の習得状況**について、評価規準を用いて形成的評価する。
- ・他の学習や生活の場面でも活用できる程度に**概念等を理解したり、技能を習得したりしているか**について評価する。

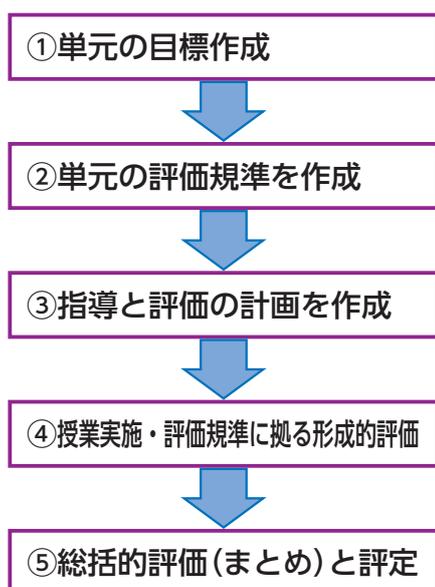
「思考・判断・表現」の評価

- ・各教科等の**知識及び技能を活用して外国語によるコミュニケーションにおける課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか**を評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた**粘り強い取組**の中で、**自らの学習を調整しようとしているか**どうかを含めて評価する。
- ・個人内評価等を通じて積極的に見取り、児童生徒に伝える。

○学習評価の進め方



※評価規準とは、教育目標を具現化したもので、「すべての学習者が到達することを期待する達成目標」のことである。

小学校外国語活動・外国語科 / 中学校外国語科における評価の観点及びその趣旨			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校 外国語活動 3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。 ●日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 ●外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
小学校 外国語科 5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき、これらの知識を理解している。 ●読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。 ●外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 ●コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
中学校 外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ●外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

戸田市立小・中学校「外国語(英語)」:指導と評価におけるルーブリック(指標) ～主体的・対話的で深い学びへの授業改善～

0 授業前の準備・確認を入念にしたか。

【授業力の視点】

- 9年間の英語教育を通して、**自校で育てたい子供像(目標)**を常に意識して授業をしているか。
- CAN-DOリスト形式による学習到達目標を基に、各学年修了時に**英語を使って何ができるようになるか**を子供と共有しているか。
- 日頃から子供とのコミュニケーションを大切にして、**良好な信頼関係**を築けているか。
- 英語を用いてコミュニケーションすることの楽しさや大切さに気付かせているか。
- 使用する言語の間違いや失敗を受け入れられる集団作りをしているか。
- 常に**子供の実態**や**学習状況・学習過程**を的確に把握しているか。〔指導と評価の一体化〕
- 基本的な学習ルール**を定着させているか。〔開始時刻の厳守・発言の仕方・話の聞き方〕
- 教材研究を的確に行い、ねらいに合った教材教具やワークシートを準備しているか。
- 学習環境〔掲示物・ICT〕やコミュニケーション力を育む言語環境づくりを心がけているか。
- 子供の**「主体性」**や**「発話量」**を意識した**コミュニケーション活動**を設定しているか。
- ALTとの打ち合わせを十分に行い、**授業におけるそれぞれの役割を確認**しているか。
- 言語材料について理解したり練習したりする**学習活動**と、互いの考えや気持ちを伝え合うなどの**言語活動**をバランスよく位置づけているか。〔ふれる → 慣れる → 親しむ〕
- 口頭コミュニケーションを重視したINPUTから、**相手意識・目的意識**を重視したOUTPUTになっているか。
- 基本的な語彙や表現は、**意味のある文脈**でのコミュニケーションにおいて繰り返し使用し、活用できるようにしているか。
- 授業は英語で進められるよう、**教室英語**を活用し、明確な指示を出せているか。
- 学習上配慮を要する子供を理解し、**個に応じたきめ細かな指導**をしているか。
- 国際及びグローバルなコミュニケーションでは必須の資質・能力〔**人権尊重・思いやり・論理的な思考力・判断力・表現力**〕を日頃から磨いているか。
- コミュニケーション活動における学びの深さとは、日本と外国の言語や文化、考え方等の違いに気づき、課題を解決〔探求〕することである。そのような理念で授業をしているか。

1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。

【目指すべき目標＝評価規準及び評価基準を設定して行う指導と評価の一体化】

- 授業〔言語活動〕で**身に付けさせたい資質・能力〔目指す子供の姿〕**を明確にイメージしたか。
- 単元や本時の目標は**学習意欲を高めるフレーズ**で設定し、子供に分かりやすく示したか。
- 1時間の授業の流れを掲示し、何を学習するのか**見通し**を持たせることができたか。
- 子供の**学習意欲**や**知的好奇心を高める導入場面と状況**を設定したか。
〔トピックチャット・フリートーク・Criss & Cross・歌・チャンツ・クイズ・異文化紹介等〕
- 即興でやり取りする力を育成するため、**教室を実際のコミュニケーションの場**にできたか。
- コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定**し、子供たちが「聞いてみたい」「自分の気持ちや考えを伝えたい」「持っている情報を共有したい」と思わせるような**具体的な課題**を設定できたか。
- 帯学習を活用して、**自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動**を数多く体験させたか。
- 設定した目標の達成状況を見取るために必要な「**評価規準**〔概ね満足〕及び様々な実現状況を示す**評価基準**〔A(十分満足)、B(規準)、C(努力を要する)〕を設定して授業を行ったか。
※評価基準は「個人内評価」をする上で重要な指針となる。

2 子供が自分の考えを表現することができていたか。

【主に主体的な学びの視点】

- 一人ひとりの「**主体性**〔自分で考え、判断し、行動すること〕」を重視して指導したか。
- 具体的な課題に対して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を理解し、**情報を整理**しながら、**互いの考えや気持ちを伝えあっている場と適切な時間**を設定できたか。
- WhyやHowを用いて、「**相手の考えや意見**」を引き出すような**発問**を工夫できたか。
〔What do you think about it? / Do you agree? / Why? / What do you need? / For example? / How about you? / How was it?〕
- 伝えようとする内容を分かりやすく整理させることができたか。
- コミュニケーションに必要な語彙や表現に習熟するための学習時間を十分に確保したか。
- 学習につまずいている子供たちへの支援方法を準備し、実行できたか。



3 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの視点】

- 相手や他者と主体的に関わりあう場面や状況を意図的に設定できたか。
- 持続性のある豊かなコミュニケーションにするために**ペアワーク**、多様な見解を求めるときに**グループワーク**を取り入れるなど、**学習形態を工夫**できたか。
- 対話を持続するための手立て**を発達段階に応じて講じたか。
〔例：確認する、繰り返す、つなぎ言葉を使う、関連した質問をする、意見・感想を言う等〕
- 豊かなコミュニケーションを図るために**、相手や他者を尊重しながら、**「コミュニケーションストラテジー〔方略〕**や**「言語の働き」**を意識させて指導できたか。
方略：〔 Eye Contact / Clear Voice / Good Response / Nice Smile / Gesture 〕
働き：〔コミュニケーションを円滑にする・事実・情報を伝える・相手の行動を促す等〕
- これまでに身に付けた知識や技能を活用して、友人やALTとのやり取りを通して、**自分の思いや考えが広がったり、深まったり、更新されたりするような育み**が見られたか。
- 子供たちの考えを広げ深められるよう、教具〔タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等〕の**特性**を生かし、**効果的な活用**ができたか。

4 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【主に深い学びの視点】

〔外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方〕

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること

- 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、直接・間接コミュニケーションを通して得られた情報を**形成・整理、比較・検討**したり、さらには自分の考えや情報を**再構築**したりすることで**見方・考え方を深めたりする活動**になっていたか。
- 伝える目的に応じて収集した多様な情報を整理して、相手や他者に分かるように自分の考えを形成し、**根拠等をもって論理的に表現できる**よう指導を工夫したか。
- 「コミュニケーション能力は、実際のコミュニケーションを経験することによってしか身に付かない」という考えのもと**、5領域を関連させながら**統一的・総合的に指導**に当たれたか。
〔①聞くこと ②読むこと ③話すこと（やり取り） ④話すこと（発表） ⑤書くこと〕
- 中学校では学んだ言語の知識や技能をフルに活用した、チャレンジングなタスクを設定したか。
〔speech / interview / presentation / discussion / debate / problem-solving activity 等〕

5 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。【学びの評価・振り返り】

- 評価観点に基づく評価計画を作成する際は、本ルーブリックを本校で策定する評価規準及び基準に盛り込む。それらに基づき、本時→単元→学期→年間→通年を通して、**子供たちの変容**を評価する。通常の授業や単元レベルでは「学習状況や過程」を見取る**形成的評価を重視**するが、学期や学年の修了時には**「何ができるようになったか〔達成目標の実現状況〕**をも見取る。そのことは**教育課程の改善**だけでなく、**教育の説明責任**をも果たすことができる。
- 子供たちが**「本時の目標に正対した振り返り」**ができるような場を設定したか。
〔何ができるようになったのか（身に付いた資質・能力） / 自身の学びや変容の自覚〕
- 子供たちが**相手や他者との関わりを通して学んだこと**や**理解できなかったこと**等、**自分の言葉でまとめ**、次の学習につなげられるような振り返りができたか。
- 相互評価を取り入れ、子供たちが**友達の良かったところを発表**するなどして、**自己肯定感を高められるような工夫**ができたか。
- 子供たち自身が、自らのコミュニケーション活動をメタ認知し、コミュニケーションへの意欲・楽しさ〔資質〕、思考力・判断力・表現力〔能力〕等を高め、外国語を用いて**コミュニケーションを図る資質・能力**を育成できたか。

外国語活動・外国語科の授業の流れ

言語活動の流れ	指導者の動き・留意点	具体的な活動例
<p>① あいさつ <u>Greeting</u></p> <p>② ウォームアップ <u>Warm up</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パターン化した挨拶ばかりでなく、児童同士、またはALTやHRTと挨拶を交わす。 ・<i>Let's enjoy communication!</i> と発する。 ・<u>英語によるコミュニケーション</u>に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の歌、チャンツ ・簡単なクイズ、ゲーム ・Small Talk (Teacher's Talk) HRTとALTで活動内容に関する対話のやり取りをする。また、児童も対話に巻き込む。
<p>③ コミュニケーション活動 <u>COMMUNICATION ACTIVITIES</u></p> <p><ふれる> <u>Meaningful Practice</u> (意味のある練習)</p> <p><慣れる> <u>Pseudo-communicative Practice</u> (擬似的な言語活動)</p> <p><親しむ> <u>Real Communication</u> (真に意味のある言語活動)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 本時の「めあて」の提示をする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な語句や基本表現を理解させる。 ・単元の初めでは、十分に時間をかけて行う。 ・2時間目以降は「やり取り」を通して、前時までの慣れ親しんだ表現の振り返りも行う。 ・簡単な語句や基本表現に慣れさせる。 ・単元が進むにつれて「やり取り」を通して、簡単な語句を増やすようにする。 ・使用場面を設定し、<u>擬似的なコミュニケーション</u> (部分的な語句の入れ替え) を通じて簡単な語句や基本表現に慣れ親しませる。 ・真の「言語活動」時間。これまで慣れ親しんだ語句や表現を使い<u>自分で思考・判断(整理)</u>した内容を<u>伝え合う</u>。<u>eye-contact, smile, clear voice, response</u>にも留意させる。 ・友達やALTとの異文化コミュニケーションを楽しませる。 ・単元の後半では、コミュニケーション活動を通して<u>音声で十分に慣れ親しんだ</u>簡単な語句や表現を書き写したり、音読させたりする。音読は<u>意味が分かるように</u>する(※右記の[活動]を参照)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRTとALTによるロールプレイ・プレゼンテーションなど ・デジタル教材によるリスニングなど ・ピクチャーカード等による新しい語句の導入など ・簡単な語句や基本表現は、常に児童との「対話のやり取り」を通じて慣れ親しませる(英語による<u>コミュニケーションに慣れさせる</u>)。 ・語句に慣れ親しませるためのゲーム ・<u>自分の考えを伝え合う</u>ペアワーク等 ・インタビュー活動(対話のやり取り) ・<u>Show and Tell, Speech</u>など自己表現活動(活動後は、必ずQ. & A.も行う。) ・将来の夢など、ALTやゲストティーチャーに対して、又は児童同士のプレゼンテーション(必ずQ. & A.も行う。) ・買い物などの「やり取り」活動、プロフィールカード、パンフレットなどの製作活動 ・ALTの話による異文化理解(情報収集活動) ・絵本の読み聞かせなど(語句や表現を絵本から<u>識別する活動</u>など) ・自己の学習状況について<u>評価規準と比較</u>して<u>達成状況を形成的評価</u>させる(良かった点や課題を振り返らせる)。 ・次時に向け、児童の<u>学習意欲</u>(主体的に学習に取り組む態度の育成)を促す。
<p>④ まとめ・振り返り <u>Self-assessment</u> (評価規準を用いて)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードの記入 ・感想発表 ・HRTやALTのフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の学習状況について<u>評価規準と比較</u>して<u>達成状況を形成的評価</u>させる(良かった点や課題を振り返らせる)。
<p>⑤ あいさつ <u>Good-bye</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と元気よく終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時に向け、児童の<u>学習意欲</u>(主体的に学習に取り組む態度の育成)を促す。

学級担任(HRT)・ALTの役割分担

【授業前・授業準備】

HRT	<ul style="list-style-type: none"> ・「目標に準拠した指導と評価の一体化」にそった計画を立てる。具体的には、単元及び各授業の①目標②活動内容③評価規準等からなる指導計画を作る。 ・各活動を通して「どのような資質・能力を育みたいのか」を決定する。 ・指導計画はコミュニケーションの機能を示す「言語の働き」を重視して作る。 ・授業の中心はHRT：指導内容と役割等についてALTと打ち合わせをする。
ALT	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容と役割等について、HRTと打ち合わせをする。 ・HRTが考案した活動の「対話のやり取り」等を英語に翻訳する。 ・HRTが考案した活動内容に必要な教材、教具等を一緒に準備する。

【授業中】

HRT	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、常に評価規準を意識し、児童の学習状況を確認しながら展開する。 ・本時のメイン活動の前に、児童に「めあて（概ね、評価規準）」を示す。 ・望ましい授業規律で授業を進行できるように、児童への声かけ・支援を行う。 【例えば、①児童がALTの発話内容を十分に理解していない場合、児童と対話を通して解決を図りながら授業を進める。②児童間のコミュニケーション活動で困っている児童がいたら、すぐに支援しその児童の「主体性」を促す。】 ・授業展開の簡単な指示は、出来る限り英語で行う。 ・ALTと「対話のやり取り【コミュニケーションの仕方】」の例を示す。 ・常に児童の積極的な発信を促す。その際、「国際コミュニケーションで求められる自己決定・行動力（initiative）」の育みを重視する。 ・評価規準を用いて児童の学習状況を把握し、問題があれば授業改善を図る。また、5～6名を対象に活動中の変容を詳細に見取る。【形成的評価】 ・児童に自分の学習の達成状況を評価規準と比べて振り返らせる。【形成的評価】 ・次時に向け、必ず児童の学習意欲（主体的に取り組む態度の育成）を促す。
ALT	<ul style="list-style-type: none"> ・HRTが中心となって進める活動内容を打ち合わせどおりに支援する。 ・基本的には、英語での発話モデルになる。 【例：①HRTと対話のやり取りを行う。②児童に異文化コミュニケーションの実体験をさせる。③児童間の活動で困っている児童がいたら支援する。④児童に自国の文化や生活、考え方や見方等について発信する。】

【授業後】

HRT ALT	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業のために、授業の「良かった点や改善点」についてALTと話し合う。 ・児童の学習状況について、気付いたことや発見したことをHRTと共有する。
------------	--

小学校外国語科 第5学年授業の流れ

タイトル	Hello, friends. 名前や好きなもの・ことを伝えよう。 Enjoy Communication		
学年・実施時期	第5学年 4月 第5時		
活動目標	自分の名前と好きなものを伝える。【知・思】		
評価規準	【知・思】 文字と口頭で名前と自分の好きなもの・ことを伝えている。		
活動の流れ	児童の活動	HRTの活動 ※形成的評価	ALTの活動
1 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 <i>Let's enjoy communication!</i> と発する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に挨拶をさせる。 <u>H: Good morning.</u> <u>How are you? I'm good!</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の後、"How are you?"など気分を尋ねる等など児童とコミュニケーションを図る。
2 ウォームアップ	<ul style="list-style-type: none"> 歌を歌う。 HRTとALTの自己紹介を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌の指示を出す。 <u>H: Let's sing "Nice to meet you".</u> ALTとやり方を提示する。 <u>H: Let's Talk. Watch and listen.</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞を復唱させる。 HRTとやり方を提示する。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><Small Talk ></p> <p>H: Hi! I am Minami. What is your name?</p> <p>A: Hi, Minami. My name is Taro. Nice to meet you!</p> <p>H: Nice to meet you, too!</p> </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ALTとスモールトークをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童を巻き込みながら、ALTとスモールトークができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 例示した流れを、数名の児童と会話する。
3 コミュニケーション活動 ・書くこと①	<ul style="list-style-type: none"> 自分の名前を巻末の名刺カードに書く 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>名前や好きなもの・ことを伝えよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 大文字の書き方の確認をする。(p.87~参照) <u>H: Let's check Alphabets.</u> <u>H: Write your name in Alphabets.</u> 児童を評価する。 ※自分の名前を伝えるために、活字体の大文字を用いて書いている。 【知・技・思】 	<ul style="list-style-type: none"> 大文字を発音し、指書きなどで書き方を確認する。 書き方のわからない児童を助ける。
・話すこと (やり取り) ①	<ul style="list-style-type: none"> ペアでたずね合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTとやり取りを提示する。 <u>H: Watch and listen.</u> 	<ul style="list-style-type: none"> HRTとやり取りを提示する。





T: Hi! A: Hi!
 T: How do you spell your name?
 A: E-M-I-L-Y. Emily. How about you?
 T: S-A-K-U-R-A. Sakura. A: Thank you!

- ・ペアでたずね合いをさせ、良かったところを全体で共有する。
- ・いろいろな児童やALTと会話をさせる。
- ・望ましいコミュニケーションを図っている児童を観察する。
- ・児童と一緒につづりをたずね合う。

・書くこと②

・好きなもの、ことを巻末の名刺カードに書く。

・好きなものの例を提示し、書き方の確認をする。

(Picture Dictionary参照)

H: Let's check how to say what you like.

H: Write what you like.

・好きなものの例を発音し、絵などを使って語の確認をする。

・書き方のわからない児童を助ける。

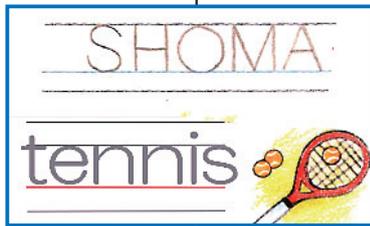
・話すこと
(やり取り) ②

・ペアでたずね合う。

・ALTとやり取りを提示する。

H: Watch and listen.

・HRTとやり取りを提示する。



H: ○○さん、What sport do you like?

A: I like soccer. How about you?

H: I like basketball.

And what color do you like?

A: I like green.

H: Oh, green! 'I like red. A: Thank you!

- ・ペアでたずね合いをさせ、良かったところを全体で共有する。
- ・いろいろな児童やALTと会話をさせる。
- ・児童の変容を評価する。

※好きなもの・ことを慣れ親しんだ言葉を用いて伝え、互いに分かち合っている。【知・技、思】

・望ましいコミュニケーションを図っている児童を観察する。

・児童と一緒に好きなもの・ことを伝え合う。

4 まとめ・振り返り

・振り返りカードに、評価規準と比較して自分の達成状況を書く。

- ・振り返りカードを発表させる。
- ・意欲的に活動できた児童を称賛する。
- ・次時の活動に向け、学習意欲を促す。

・コミュニケーションの仕方についてのフィードバックを行う。

5 あいさつ

・挨拶をする。

- ・児童に挨拶をさせる。

小学校外国語科 第6学年授業の流れ

タイトル	This is me! 名前や好きなこと、誕生日を発表しよう Starting Out		
学年・実施時期	第6学年 4月 第1時		
活動目標	名前と好きなものを伝える。[思]		
評価規準	[思] 自分の名前と好きなものを慣れ親しんだ言葉を用いて友達やALTと伝え合っている。		
活動の流れ	児童の活動	HRTの活動 ※形成的評価	ALTの活動
1 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 <i>Let's enjoy communication!</i> と発する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に挨拶をさせる。 H: <u>Good morning.</u> <u>How are you? I'm good!</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の後、"How are you?"など気分を尋ねる等など児童とコミュニケーションを図る。
2 ウォームアップ	<ul style="list-style-type: none"> HRTとALTの自己紹介を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTとやり方を提示する。 H: <u>Let's talk.</u> <u>Watch and listen.</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><Small Talk > H: Hi! I am Minami. A: <i>Minami?</i> H: Yes! <u>M-I-N-A-M-I. MINAMI.</u> I am from Japan. (同様に ALT も自己紹介をする。) H: Nice to meet you! A: <i>Nice to meet you, too!</i></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ALTとやり方を提示する。
	 <ul style="list-style-type: none"> スモールトークをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取れた内容を共有する。 H: <u>What is his(her) name?</u> <u>Where is ○○from?</u> 	
	<ul style="list-style-type: none"> ペアでスモールトークをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアでスモールトークをさせる。 H: <u>Now your turn.</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒に自己紹介をする。
3 コミュニケーション活動 ・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 世界の子供達のプロフィールを聞き、解答を教科書に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の名前や好きなもの・ことを伝えよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 聞く活動の指示を出す。 H: <u>Let's listen about :</u> / <u>their name</u> / <u>Where they are from</u> / <u>What they like.</u> 聞くときのポイントを伝える。(名前、出身国、母語、好きなものなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書例のように、ALTの詳しい自己紹介をする。 (名前・出身国・母語・好きなもの・誕生日など) 順番に名前や出身国、好きなものなど振り返りをする。

<p>・話すこと (やり取り)</p>	<p>・自分の名前や好きのものを伝え合う。</p>	<p>・答えの確かめをする。 H: Let's check.</p> <p>・ALTとやり方を提示する。 H: Watch and listen.</p> <div data-bbox="651 421 1286 763" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>H: Hi! A: Hi!</p> <p>H: I am □□ . I'm from Japan. I like music. I can play the piano.</p> <p>A: Piano, it is nice! I am ○○ . I'm from America. I like baseball. I can play baseball. My favorite team is △△ .</p> <p>H: I like baseball, too. Nice to meet you.</p> <p>A: Nice to meet you, too.</p> </div>	<p>・HRTとやり方の提示をする。</p>
<p>・書くこと</p>	<p>・「わたしのせりふ」に変えて、自分の名前などをp.86に書く。</p>	<p>・ペアで自己紹介をさせ、良かった所を全体で共有する。</p> <p>・いろいろな児童やALTと自己紹介をさせる。</p> <p>・児童の評価をする。</p> <p>※自分の名前と好きなものを慣れ親しんだ言葉を用いて友達やALTと伝え合っている。【思・判・表】</p> <p>・書く活動の指示を出す。 H: Let's write. Open your text book, page 86.</p> <p>・自分の名前、出身国、好きなものを教科書に書かせる。</p> <p>・綴りが分からない児童には、別冊の <i>Picture Dictionary</i> を参考にして書き写させる。(スポーツp.7,食べ物p.8~11,動物p.12&13,教科p.24)</p>	<p>・望ましいコミュニケーションを図っている児童を観察する。</p> <p>・児童と一緒に自己紹介をする。</p> <p>・好きなものなど綴りが書けない児童を支援する。</p>
<p>4 まとめ・振り返り</p>	<p>・振り返りカードに評価規準と比較して自分の達成状況を書く。</p>	<p>・意欲的に活動できた児童を称賛する。次時の活動に向け、学習意欲を促す。</p>	<p>・コミュニケーションの仕方についてフィードバックを行う。</p>
<p>5 あいさつ</p>	<p>・挨拶をする。</p>	<p>・児童に挨拶をさせる。</p>	



中学校 戸田型 即興スモールトーク

Let's enjoy communication!

Communication Strategy (円滑なコミュニケーションを図るための方略)

1. Eye Contact 2. Nice Smile 3. Clear Voice 4. Good Response 5. Gesture

【 言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する学習の流れ 】

- ① **Interactive Teacher's Talk with ALTs**
教師主導の「やり取り(発問、話題の投げかけほか)」を行う。
ALTとコミュニケーションを図りながら、「対話のやり取り」例を聞かせる指導。
- ② **Meaningful Practice (意味の確認)**
言語活動で用いる表現と「対話のやり取り」の仕方を練習する指導。(全体→列→個人)
- ③ **S-S Interaction 1 : Pseudo-communicative Practice (擬似的な対話練習)**
生徒同士で「対話のやり取り(information gapなど)」を行う。(十分に時間を与える)
- ④ **Feedback, Sharing and Practice again (下記の「対話の続け方」を参考)**
「会話を継続させる・発展させる方法」についての気付きや再確認を促し、再度練習する。
- ⑤ **S-S Interaction 2 : Real Communication**
④を活かし、「実践的な対話のやり取り」を行う。

★対話の続け方(必ず言葉に気持ちを入れる)

対話の開始	対話の始めの挨拶 Hello. / Hi. / How are you? / What's up? / How's it going?
繰り返し	相手の話した内容の中心となる語や文を繰り返して確かめること You like English. / You went to Kyoto. / Do(Did) you?
相づち 【一言感想】	相手の話した内容に対して自分の気持ちを簡単に伝えること That's nice! / Great! / I see. / Me too. / Oh, really? / Uh-huh / Wow! I think so too. / I don't think so. / I know what you mean.
つなぎ言葉	会話が途切れないように工夫すること Well, / Let's see, / Let me see, / You know, / And, / But, / Because
聞き直し	相手の話した内容が聞き取れなかった場合に再度の発話を促すこと Pardon? / One more time, please. / Sorry? / What do you mean?
会話を広げる 工夫	相手の行動を促したり、自分の意見をさらに付け加えること How about you? / Tell me more. / Anything else? / For example, such as, / Especially, / Actually, / By the way,
さらに質問	相手の話した内容についてより詳しく知るため関連する質問をすること Why do you think so? / What do you think? / 5W1Hのフル活用
対話の終了	対話の終わりの挨拶 Nice talking to you. / See you. / Good bye. / Have a nice day.

①好きなものリレー英会話

CAN-DO: 自分の好きなものについて、理由を添えて即興で述べることができる。

1. Which season do you like? And why? – I like summer because I can enjoy BBQs in the park.
2. What sports do you like? And why? – I like basketball because I can play it well.

②つっこみ英会話

CAN-DO: やりとりの中で物事を掘り下げて、対話を継続することができる。

- A: What do you like to do in your free time? B: I like to read books.
 A: What kind of books do you read? B: I often read novels.
 A: Who is your favorite writer? B: I like Higashino Keigo and Murakami Haruki.
 A: How many books do you read in a week? B: About 4 books.

③自己紹介→他者紹介

CAN-DO: 自分や自分の身のまわりの人について写真や絵を用いて、相手に伝え、問答できる。



H.30 1年スピーキングテスト
出典「埼玉県英語教育研究会」

自己紹介

- ①なりきり自己紹介（ロビンになりきる）を行う。
- ②自分に置き換えて、自分自身のことを伝える。
- ③話題を増やす。（身分、呼び名、住所、兄弟・ペット、部活動等）
- ④関連のある内容を相手にも質問する。

他者紹介

- ①主語を He に変えて、ロビンを紹介する。
- ②ロビンを他者に変え、他者を紹介する。
- ③話題を増やす。（外見、性格、能力等）
- ④自分の考えや意見を織り交ぜ、関連する内容を相手に質問する。

④論理スピーチアクティビティ

CAN-DO: 自分の意見を理由と具体例を添えて明確に伝えることができる。

ポイント: 主張・理由・具体例の順で明確に意見を伝える。

- (例) 1. Which is better, summer or winter? 2. Why do you think so?
 3. Tell me more. < and / or > Do you have any other reasons?

⑤写真描写アクティビティ

CAN-DO: 写真に関する質問に、想像力を用いながら、理由とともに答えることができる。



出典「Sunshine ③ Program3」

1. What are they talking about? - (Why do you think so?)
2. What will they do after talking? - (Why do you think so?)
3. What can we do for the earth? - (Why do you think so?)

Tell me more about the photo.

質問者：パートナーに質問をする。理由を聞く。
 解答者：絵を見て、想像力を働かせながら、質問に答える。解答には理由を添える。

⑥ロールプレイアクティビティ

CAN-DO: ある状況設定の中で、登場人物になりきり、既習事項をフル活用し会話をすることができる。

ミッションカードに記載された場面・状況を踏まえ、登場人物A・Bになりきって対話をする。

- (例) 友達とイタリアンレストランを訪れ、注文してから20分経つのに食べ物は何も来ない・・・。
 A:客 B:ウェイター AがBに声を掛けるところからミッション開始

全国学力・学習状況調査問題の趣旨を活用した活動例・測定問題例

- 「全国学力・学習状況調査」には、授業や定期テスト改善のための様々なメッセージが含まれている。
- 今後の授業の在り方と学力・学習状況の測定(定期テスト等)の仕方について改善すべき留意点を示している。
- 教科内容の「言語活動」を充実させるための仕掛けが調査問題の中に組み込まれている。

【※「言語活動」の定義:語や文の暗記及び繰り返し練習ではなく、**自分の考えや気持ちを伝え合う活動**】

授業の在り方と学力・学習状況の測定の在り方の改善

(1) <授業の在り方の改善> (右ページの例を参照)



※「理解と表現」の統合型授業(「聞くこと」「読むこと」と「話すこと」「書くこと」の統合)の推奨

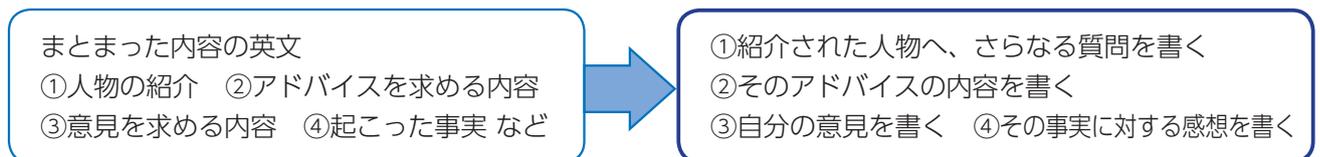
(2) <学力・学習状況の測定(定期テスト等)の在り方の改善>

押さえておきたいポイント

- 言語の規則に関する知識(文法等)のみを問う問題に終始しないこと。
 - 単語の穴埋めや並び替え、英訳、日本語訳の問題に終始しないこと。
- **複数の領域を統合した問題**を加えて、その時点での**思考力・判断力・表現力を測定**することが大切!

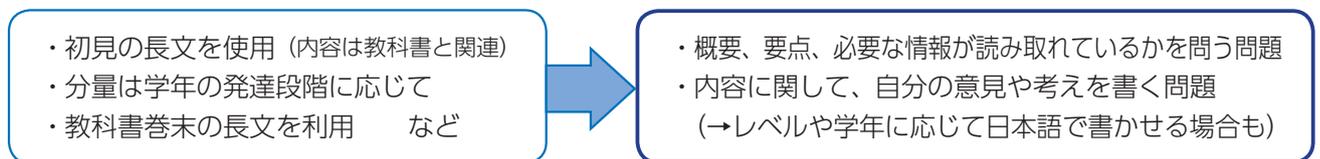
例① リスニング問題 【聞く力のみを問う問題→思考力・判断力・表現力も見取る問題へ】

→ 聞かせた内容を理解したかどうかを問う問題に終始せず、



例② 長文問題 【概要把握・要点整理→自分の意見や考えを表現させる(=思考力・判断力・表現力を見取る問題)】

→ 教科書の本文を使用し、穴埋めや並び替え、日本語訳や英訳に終始せず、



例③ 表現問題 【書く力を見取る問題≠文法問題 「言語の規則(文法等)の機能とは何か」を考えて出題する。】

→ 2年不定詞の機能(目的を伝える)を考慮し、以下の表の文言を使って、自分の考えに基づく作文をさせる。

番号	(イ)行き先	(ロ)目的	(ハ)時期
①	New York	英語を勉強する	来年の夏休み
②	Australia	キャンプをする	去年の夏休み
③	Hawaii	買い物をする	来年の冬休み

<解答例>

- ・ I will go to New York to study English next summer.
- ・ I went to Australia to go camping last summer. など

全国学力・学習状況調査を活用した「言語活動(書くこと)」

≪トピック:先生方を紹介しよう!≫

目 標	「◇年生の先生を、他学年の生徒に分かりやすく文章で紹介しよう！」
評価規準	インタビューで得た情報を整理しながら考えを形成し、それらを書く活動を通じて論理的に(=文のつながりに注意してまとまりのある文章を)書いている。
言語活動と 技能	「話すこと:やり取り(対話力)、発表(表現力)」 「書くこと(文章力)」
言語活動の 手順と 育まれる能力	<ol style="list-style-type: none"> 1 教師への質問を考える。〔思考力〕 2 教師にインタビューし、情報を記録する。〔思考力・判断力〕 3 インタビュー結果の情報を整理しながら考えを形成し、まとまりのある文章を書く。〔思考力・判断力・表現力〕 4 教師の添削を受け、色画用紙や上質紙に清書する。顔写真も掲載する。 5 掲示された作品を発表する。〔表現力(発表)〕 6 生徒間で発表内容の確認(質疑応答)をする。〔表現力(やり取り)〕 <p>≪教師への質問例≫ What is your name, please? / What subject are you teaching? What food do you like? / Where are you from? / Where do you live? How many members are there in your family? Do you have children? ⇒ How many? ⇒ How old are they? What do you like to do in your free time? / When is your birthday?</p> <p>≪まとまりのある文章例≫ His name is Mr. Yamamoto. He is a P.E. teacher. He likes winter and skiing very much because he is from Hokkaido. He also likes singing, so he often goes to karaoke. He lives in Kawaguchi with his family. There are four members: he has a son and a daughter. His son is nine and his daughter is three years old. He often enjoys playing with them in a park when he has a free time.</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ●インタビューをする教師については、生徒の能力差を考慮し2～3人で一人の教師を担当することが望ましい。 ●実施する学年によって、質問内容を変えることができる。 ●下書きをクラス内で読み合い、お互いにアドバイスし合う機会を設ける。 ●学校公開日に合わせて作成して掲示すると、保護者や学区の他の生徒、地域の方にも「英語による論理的な文章の書き方例」を見てもらうことができる。学校公開日以外でも、書いた文章を廊下などに掲示すると、他クラスや他学年とも交流できる。
対応する調査 問題	⑩まとまりのある文章を書く。(論理的思考・判断・表現の諸能力の育成)



戸田市英語教育推進計画2020 ～3×ECプラン～



やさしいまちに、なりたい。

戸田市の英語教育の目標

○小・中9年間の一貫した英語教育を通して育てたい子供像



誰でも主体的に関わろうとする子供



互いの気持ちや考えを英語で伝え合うことができる子供



豊かな国際性を身に付けた子供

○中学校卒業時に英語でプレゼンテーションができる子供の育成

○中学校卒業時に英検3級以上取得率65%以上

小・中一貫英語教育カリキュラム

小学校 Elementary School

低学年：年間20時間程度

中学年：年間70時間（ロング＋モジュール）

高学年：年間70時間（ロング＋モジュール）

ふれる→慣れる→親しむ 対人コミュニケーション活動

中学校 Junior High School

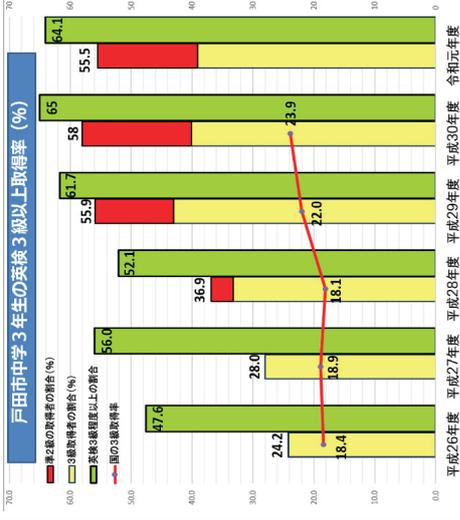
戸田市版CAN-DOリストを活用したAll English授業

A L T を活用した複数領域統合言語活動

即興性・持続性を高めるスモールトーク

I C T を活用したプレゼンテーション

中学3年生の英検3級以上取得率推移



着実な英語力の向上

戸田市英語教育推進委員会を核とする英語教育改革の推進【小中一貫教育】

教育課程特例校として英語活動を実施
小・中一貫英語教育カリキュラム

小・中学校全校にALTを常駐配置

中学校区別小・中連携授業研究会の実施
(小学校2校・中学校1校)年間3回

英語教育推進リーダーを活用した研修
センター研究員による英語指導力研修

ALTとのマンツーマンによるインタビュ
等のパフォーマンステストの実施

各種学力・学習状況調査の弱点分析・補強

ICTの活用(デジタル教科書・タブレット)

英語検定受験費用助成事業

中学校3年生【英検3級・準2級】

小学校6年生【英検Jr.GOLD】

3×ECプラン

Communication Plan (3×ECプラン)

- 英語指導・評価用ルーブリックの活用
- 考えや気持ちを伝え合うやり取り(即興で持続性のある会話)の充実
- 複数領域統合言語活動の充実
- アウトプット活動の充実(ディベート等)
- エビデンスに基づく授業改善(全国学調・県学調・英検・各種調査等)

○小学校教員の英語免許状取得を促進

○教員の英検取得を促進

小学校：英検2級、中学校：英検準1級

○産官学と連携した質の高い研修

○香港日本人学校のグローバルクラスの児童と戸田市内小学校との交流授業

○イマージョン教育

○教育×テクノロジーの推進(EdTech)

(遠隔授業・音声認識・AIロボット)

Enjoy Enrich Explore

①ALの視点からの授業改善

②教員の英語力向上

③グローバル人材の育成

産官学との連携

BORDERLINK / ハートコートポレイション
毎週月曜日A L T meeting開催

株式会社Loilo
「ロイノート」を活用したプレゼン

株式会社mpi松香フォニックス
モジュール対応デジタル教材
SWITCH ON!を活用した授業

サイエイホールディングス株式会社
英検3級対策講座4回実施【9月】

カシオ計算機株式会社 電子辞書貸与

文部科学省委嘱事業実施

日本を代表する有識者による指導

文部科学省 国立教育政策研究所

名誉所員 渡邊寛治先生

上智大学大学院言語学専攻

教授 渡部良典先生

武蔵野大学教育学部

特任教授 村川久子先生

青山学院大学との包括連携事業